

青少年育成地区委員会・教育委員会共催 「葛飾区少年の主張大会」が 開催されました

平成24年11月17日、かつしかシンフォニーヒルズエアリスホールにおいて、応募総数589人の中から選ばれた小学生22人・中学生6人、計28人が、それぞれの主張を発表しました。結果は次のとおりです。

■小学生の部 最優秀賞

- 三浦 和也(みうら かずや・上千葉小6年)
- 「家族の絆」
佐藤美瑞樹(さとう みずき・小松南小6年)
- 「いのち」
優秀賞
行貝 高虎(なめがいたかとら・本田小5年)
- 「節電の夏」
若林 厚徳(わかばやし あつり・渋江小6年)
- 「取り戻そう伝統文化」
天童 虹(てんどう にじ・綾南小6年)
- 「幸せな人生」
日高 歌音(ひだかかのん・西亀有小6年)
- 「生きているということ」
庄司 優花(しょうじ ゆうか・新宿小6年)
- 「じいちゃんがやって来た」
入選
小西 泰聖(こにし たいせい・清和小6年)
- 長坂 幹也(ながさか ともや・宝木塚小6年)
- 内山 菜緒(うちやま なお・亀青小6年)
- 新保 綺蘭羅(にいほ きらら・中青戸小6年)
- 山口 玲美名(やまぐち れみな・二上小6年)
- 山本 理湖(やまもと りこ・南戸小6年)
- 三水 奈緒子(すみず なおこ・細田小6年)

■中学生の部 最優秀賞

- 中嶋 啓斗(なかしま けいと・細田小6年)
- 杉本 育矢(すぎもと いくや・柴又小6年)
- 茂泉 慎希(もいずみ まさき・北野小6年)
- 相山 龍人(あいやまとと・新宿小6年)
- 山形 直(やまがた なお・半田小6年)
- 萩原 美映(おぎわら めいは・東水元小6年)
- 末武 歩(すえたけ あゆみ・飯塚小6年)
- 椎橋 宗舞(しいばし そうま・飯塚小6年)
- 小川 由夏(おがわ ゆうか・高砂中3年)
- 「命の尊さ」
優秀賞
日比野 忍(ひびの のぶ・四ツ木中1年)
- 「今、伝えること」
葛山 和奏(かつやま わかな・中川中3年)
- 「感謝力を磨きませんか」
入選
川村 七海(かわむら ななみ・葛美中1年)
- 阿部 眞歩(あべ まほ・常盤中1年)
- 臺丸谷乃綾(たいまるの あ・水元中2年)

(敬称略・同一賞内の順番は発表順)

地域教育課 ☎(5654)8482



中学生の部・最優秀賞

命の尊さ

高砂中学校3年 小川 由夏

みなさんは今、自分や身の回りの人を大切にしていますか。命を大切にしていますか。最近人を傷付け、命を奪う事件が多いように感じます。その一つが、いじめです。なぜ、同じ人間なのに助け合っていくことができないのでしょうか。いじめた側の人はきつと面白半分だったのだろうと思います。それがだんだんエスカレートして、自分がやっていることのおろかさや気付いたときには、もう相手は自殺してしまっているのです。いじめた側は相手の命を奪い、いじめられた側は自分の命を無駄にし身の回りの人を悲しませてしまう。こんな残酷なことがあるのではないのでしょうか。命を奪う権限など、誰にも、自分にだつてないはずで、誰だつて沢山の人に支えられて生きていると思うからです。私は今年、命の尊さを改めて感じました。

二月に、大切な弟を亡くしました。弟は、生まれつき病気がありましたが、そんなことは感じさせないくらい明るく元気で家族みんなを幸せにしてくれました。「お姉ちゃん」と言ってもらえてくる弟が大好きで、本当に可愛くて仕方がありませんでした。

しかし、インフルエンザが原因で家で倒れ、五日間懸命にがんばりましたが帰らぬ人となつてしまいました。弟が危ないということを知ったとき、たつた一日前まで元気だったのに信じられませんでした。信じたくありませんでした。しかし、たくさんの管につながれて意識のない弟を見たとき、その事実を受け止めざるを得ませんでした。泣いても泣いても涙が止まりませんでした。それと同時にすごく後悔しました。なんでもっと話さなかったのだろう。なんでもっと遊んであげなかったのだろう。あんなことで怒らなければ良かった。「大好きだよ。」つてもっと伝えてあげれば良かった。悔やんでも、悔やみきれませんでした。しかし、私だけでなく家族みんなが悔やみ、泣いている姿を見て泣いてばかりいるのではなく、前を向いて進まなければという覚悟ができました。

弟にもう会えないのは、すごく辛いけれど、気付かされたこともたくさんあります。一つ目は、友達の大っきさです。私が一番辛いとき男女問わずたくさんの人が励まし、元気付けてくれて本当に感謝しきれないくらい感謝しています。これからも友達を大切にしていきたいです。二つ目は、思ったことを伝える大切さです。私は、日々を後悔しないように生きたいと思うようになりました。だから、伝えたいことはいつかではなく、思った時に伝えるようにしています。三つ目は、命の尊さです。人の命はすごく儂く、だからこそこんなにも尊いことがわかりました。そして四つ目は、家族を大事にしなればいけないということです。家族みんながそろって過ごすことが、当たり前だと思つていたけれど、すごく幸せなことだと今は感じています。家族の存在にもっと感謝し、辛いことも一緒に乗り越えていきたいです。

私の弟は、六年間という時間生きられなかったけれど、その六年間を精一杯生きぬきました。私の半分もない年齢で辛いことや痛いことにたえ、いつも笑顔でいた弟を私は誇りに思います。弟と過ごした日々は、私の一生の宝物でしたとえ私達の目には見えなくても、ずっとずっと大切な家族です。

今、生きるために必死に頑張っている人達がいいます。生きたいと心から願っている人達がいいます。人の命を奪ったり、自ら命を絶つてしまふ人は、そういう人達の存在を忘れてしまつていけるのではないのでしょうか。生きていけば、辛いことはたくさんあります。でも、それを超えることができれば、強くて、優しい立派な人間に成長できるのではないのでしょうか。命は限りあるものです。一度失つてしまつたら、どんなに会いたいと願つても叶いません。生きていけることは当たり前ではありませんが、自分を大切に思つてくれる人はたくさんいます。

このようなことを忘れなければ、たつた一度しかない人生を充実して過ごせるし、また犯罪やいじめなど醜い事件も減っていくのではないのでしょうか。

※なお、最優秀賞の作文については、葛飾区ホームページにも掲載しています。